

ホンダ・レーシング・スクール・鈴鹿 (HRS鈴鹿) 2023年度 Formula Classアドバンス修了式のご報告

拝啓 処暑の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は、当社の事業に格別のご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、「ホンダ・レーシング・スクール・鈴鹿 (HRS鈴鹿)」では9月6日 (水) に2023年度「Formula Classアドバンス」の最終カリキュラムおよび修了式を行いました。

2022年末より開催してきた「アドバンスコース選考会STEP1」および「同STEP2」を経て選抜した受講生8名を対象に行ってきた「Formula Classアドバンス」は、今回のカリキュラムをもって延べ12日間・合計48時間に及ぶ全日程を無事に終了することができました。これもひとえにご協賛・ご協力いただきました各社の皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げますとともに、ご報告させていただきます。

今後もHRS鈴鹿は世界に通用するドライバーの育成を目標に活動を続けて参ります。引き続き、ご理解ご協力賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

敬具

2023年9月

ホンダ・レーシング・スクール・鈴鹿事務局

●2023 ホンダ・レーシング・スクール・鈴鹿 (HRS鈴鹿) / Formula Classアドバンス最終カリキュラム・修了式 開催概要

- 日時： 2023年9月5日 (火)、6日 (水)
- 会場： フルコース (カリキュラム) / ピットビル2F・ホスピタリティラウンジ (修了式)
- 内容： カリキュラム 9月5日 (火)・9月6日 (水)とも
フリー走行 (20分間×4セット)
計測走行 (15分間×2セット)
セット走行 (12周×1セッション)
修了式 9月6日 (水) (スカラシップ選考会進出者発表)
- 参加： Principal…佐藤琢磨氏
Vice Principal…中野信治氏
Director…佐藤浩二氏
Instructor…加藤寛規氏
Support Driver…三井優介選手・野村勇斗選手・森山冬星選手
Physical Coach…鎌田貴氏
アドバンス受講生 8名



コースインに向けてピットでスタンバイする受講生たち。最終カリキュラムということで、いつも以上に緊張感が漂う



約5か月間に及ぶ「Formula Classアドバンス」の 集大成となった最終カリキュラム

レーシングシミュレータとフォーミュラEnjoyの実車を使用し、基礎運転技能を確認する「アドバンスコース選考会STEP1」（コース使用 合計15時間）と、独自のスクール車両を使用し、フォーミュラカーを操作する基礎技術を審査する「同STEP2」（コース使用 合計24時間）。2022年末より開催してきたその2つのカリキュラムを経て選抜された受講生8名は各回2日間ずつのアドバンスカリキュラムを計5回消化し、今回の第6回目が「Formula Classアドバンス」の2023年度最後のカリキュラムとなりました。

初日の9月5日（火）はウォームアップ後、いつものように全体ミーティングより1日がスタートしました。その後、メカニックによって入念に整備されたスクール用フォーミュラカーに乗り込み、ペダルの高さや踏みしるを確認してから実技トレーニングへ。マシンの個体差に関係なく確実なドライビングができるよう、第5回目カリキュラムの最終日からランダムに入れ替えられたフォーミュラカーの状態を確認しながら20分間ずつのフリー走行を4セットに渡って実施しました。

データロガーをチェックした後、15分間による計測走行を2セットに渡って実施。さらに、12周によるセット走行を行いました。

これらの走行時はHRS鈴鹿Formula Classアドバンスの修了生で、「Hondaフォーミュラ・ドリーム・プロジェクト（HFDP）」の育成ドライバーとして2023年FIA-F4選手権に参戦している三井優介選手、野村勇斗選手、森山冬星選手が同時走行しました。また、佐藤琢磨Principal、中野信治Vice Principal、佐藤浩二Director、加藤寛規Instructorにはコース脇やピットにて受講生の走りをチェックしていただき、走行後に受講生に対してアドバイスを行っていただきました。



最後まで集中力を切らさず、走り抜くことを目的としたセット走行を2日間・3セッションに渡って実施



随所で積極的な走りが披露され、 スクールの成果が証明されたセット走行

迎えた最終日の9月6日(水)も走行前に全体ミーティングを実施。受講生に対し、佐藤Principalから激励の言葉が掛けられた後、佐藤Directorによってこの日のスケジュール確認と注意点の説明が行われました。

そしていよいよ最後の実技トレーニングへ。まずは初日の9月5日(火)に使った車両からランダムに入れ替えられたスクール用フォーミュラカーの状態と路面の確認を行いながら20分間によるフリー走行を2セット実施。その後、タイヤを新品に交換し、15分間の計測走行を行い、さらに12周によるセット走行を2セッションに渡って実施しました。

計測走行ではタイヤが当たったアタック3周目にまず三井選手が2分08秒257をマーク。野村選手がそれを上回る2分08秒055を記録し、さらに加藤大翔が2分07秒703をマークしてタイミングボードのトップに。アタック4周目には洞地遼大が2分07秒826を記録して加藤と野村選手の間に割って入ると、野村選手も同じ周に2分08秒026をマークして自己ベストを更新。5周目には新原光太郎が2分08秒112、大宮賢人が2分08秒244をマークしてこちらも自己ベスト。結局、加藤、洞地、野村選手、新原、大宮、三井選手、山口大耀、森山選手、佐藤凌音、村田悠磨、佐藤凜太郎というタイム順となりました。

続いて計測走行のベストタイム順にグリッドに並び、セット走行1セッション目を行いました。スタートで野村選手をパスした新原は洞地にも並び掛ける積極的な走りを披露。後方では佐藤(凜)が8位まで順位を回復してオープニングラップを終了すると、続く2周目では山口が三井選手を、佐藤(凌)が佐藤(凜)をパス。その頃、加藤にスタート違反によるドライビングスルーペナルティが出され、加藤

は最後尾に。終盤では新原にプレッシャーを掛け続けた野村選手が新原をパス。洞地、野村選手、新原、大宮、三井選手、佐藤(凌)、森山選手、山口、佐藤(凜)、村田、加藤のオーダーでチェッカーを受けました。

計測走行のセカンドベストタイム順に並んで行ったセット走行2セッション目では加藤がスタートで失速。このスタートでも新原が積極的な走りを披露し、洞地をパスして2番手に。野村選手がトップでオープニングラップを終了すると、その後方で各車も積極的な走りを披露しましたが、雨脚が強くなったことによって西コースでスピンするマシンが続出。赤旗が出されてセット走行が中断となりました。その後、ピットに戻った全車のタイヤをウェットタイヤに交換。野村選手をベースカーとしてリスタートした後も抜きつ抜かれつバトルが展開されました。

計測走行では受講生の加藤と洞地のみが2分07秒台をマーク。その2名のタイムギャップはわずか0秒123でした。また、トップタイムの加藤から11番手の受講生までのタイムギャップは1秒以内という僅差でした。このことは各受講生がタイヤのポテンシャルを引き出して走行する術を身に付けた証と言えます。

2回に渡って行ったセット走行はオープニングラップから何度もパッシングシーンが見られる展開に。集団の中段でもテールtoノーズによる激しいバトルが展開されるなど、積極的な走りが印象的でした。また、セット走行の2セッション目はドライ路面とウェット路面が混在するコンディション下でもパフォーマンスを発揮する良い練習になりました。こうして2023年度の「Formula Classアドバンス」最終カリキュラムが無事終了しました。



最後のカリキュラムの前に、言葉の一つひとつを聞き逃さない、いつも以上の緊張感が漂う全体ミーティング

 TAICHI

 Arai
HELMET

 EAR PEACE

 EIKO
Glory of Karting

 HRC
HONDA RACING

 ENKEI

 ENDLESS
Challenge to the Future

 EXGEL®
HYPER SPORT

 RUBIN RACING
HAKODATE

 Sabell

 CCI
CCI CORPORATION

 SHIBA using JAPAN
Advanced technology products

 sparco

 DUNLOP

 ThreeBond

 三菱

 IGNY/KARL
23 01 10 00 00 00

 NGK
SPARK PLUGS

 HEPHAIST

 BRIDGESTONE

 ODYSSEY
RACING PARTS

 PROTEX

 PETRONAS

 MOTUL

 rizoma

 RIVAUX
RIVAUX RACING

 WAKOS



カリキュラム最終日の朝、スクール用オリジナルフォーミュラカーとの集合写真撮影を実施



タイムに繋がるマシンの曲げ方、タイヤマネジメントなど、Principalが自ら行う指導を積極的に吸収しようとする受講生たち





国内外のトップドライバーから直接アドバイスを受けられるのもHRS鈴鹿の大きな特徴のひとつ



変化する難しい路面コンディションの攻略法を熱心に聞く受講生



より高度な実戦テクニックを磨くための最終カリキュラム、 「HRS鈴鹿スカラシップ選考会」への進出者を決定

計測走行とセット走行を終えたその午後には「HRS鈴鹿スカラシップ選考会」への進出者発表を含む「HRS鈴鹿Formula Classアドバンス」の修了式を行いました。

まず佐藤Principalよりご挨拶。その後、自ら受講生一人ひとりに修了証書を手渡しました。さらに、8名の修了生の中から優秀な成績を修めた加藤大翔、洞地遼大、山口大耀、新原光太郎の4名を「HRS鈴鹿スカラシップ選考会」へと進出させることが発表されました。

これもちまして、2023年度の「HRS鈴鹿Formula Classアドバンス」までが無事終了しました。この後は選出された4名による「HRS鈴鹿スカラシップ選考会」のカリキュラム(コース使用 合計16時間)を10月17日(火)から行い、さらに高度な実戦テクニックを磨くための様々なプログラ

ムを消化した4名の中から数名を厳選し、2023年度スカラシップ(奨学制度)対象者を11月29日(水)に決定。若手ドライバーの発掘・育成を目的とした「Hondaフォーミュラ・ドリーム・プロジェクト(HFDP)」の育成ドライバーとして2024年シーズンのフォーミュラカテゴリーに参戦する権利が与えられることとなります。

HRS鈴鹿Kart Class・Formula Classアドバンスコースの佐藤琢磨Principal(1997年度修了)は言うに及ばず、F1レギュラー参戦の角田裕毅選手(2016年度修了)、FIA-F2選手権に継続参戦中の岩佐歩夢選手(2019年度修了)など、世界で活躍するHRS鈴鹿出身のドライバーは数多くいます。彼らに倣って今回の受講生たちも成長していくことが期待されます。今後とも受講生たちの活動に注目いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

●佐藤琢磨Principalのコメント●

「受講生は昨日、今日と素晴らしい走りを見せてくれました。本日のセット走行、2セッション目では雨が強くなり、赤旗が出された時点で走行を全て終了とするつもりでしたが、少しでも経験を積ませられないかと考え、レインタイヤに交換し、最後まで走行させるという判断に至りました。あのコンディションでの走行は皆さんにとって良い経験になったと信じています。カリキュラムを通じてよくできたと考えている受講生もいれば、悔しい思いが残った受講生もいると思いますが、いままで積み上げてきたこと全てに誇りに感じてください。レースに対して、そしてこれからの自分の人生に対して取り組むべきことはたくさんあります。スカラシップ選考会に進出する4名はさらに上を目指して邁進して欲しいと思います。選ばれなかった受講生もここで終わりではありません。むしろこの悔しさをばねに頑張ってください」



佐藤琢磨Principalより8名の受講生に修了証書が手渡された



●「HRS鈴鹿Formulaスカラシップ選考会」進出者のコメント●

◇加藤大翔(かとうたいと) 15歳／三重県

『スカラシップ選考会に進出でき、まずはホッとしています。私の課題はメンタル面です。勢いに乗れば速く走ることができますが、不安があると波に乗れません。今後は速さはもちろん、強さも身に付けたいと考えています。10月から始まるスカラシップ選考会ではさらに様々なことを吸収し、スカラシップを獲得したいです』

◇山口大耀(やまぐちたいよう) 18歳／大阪府

『アドバンス1年目の昨年も今年も、全てがうまくいけば良い位置で走ることができるけれど、そうでない時はうまくまとめることができませんでした。これには精神力が関係していると思います。体力面も向上させていきたいですし、そういった精神面も強化していきたいと考えています』

◇洞地遼大(ほらちりょうた) 17歳／愛知県

『調子が出ない場面もありましたが、今回のセット走行では良い結果を残すことができました。アドバンスは2年目です。1年目よりデータロガーを解析した結果を走行に活かすことができるようになり、走りの幅も広がりました。10月からのスカラシップ選考会では先輩ドライバーも含めた全員の中でトップで走ることができるようになりたいと思います』

◇新原光太郎(しんばらこうたろう) 18歳／兵庫県

『受講生は強敵ばかりでした。その中で選ばれてうれしく思います。最初はなかなか思った通りの結果を出せませんでしたが、カリキュラムが進むにつれて良い走りができるようになりました。このままさらに走りを向上させ、スカラシップを獲得するとともに首席で卒業したいです』



2023年度「HRS鈴鹿Formulaスカラシップ選考会」へと進出する4名
写真左から、佐藤琢磨Principal、加藤大翔、洞地遼大、山口大耀、新原光太郎、中野信治Vice Principal

